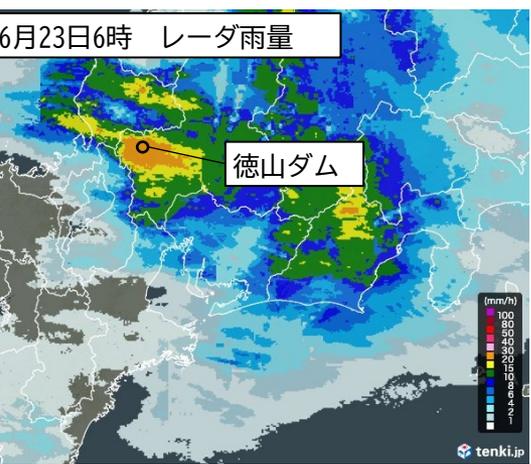
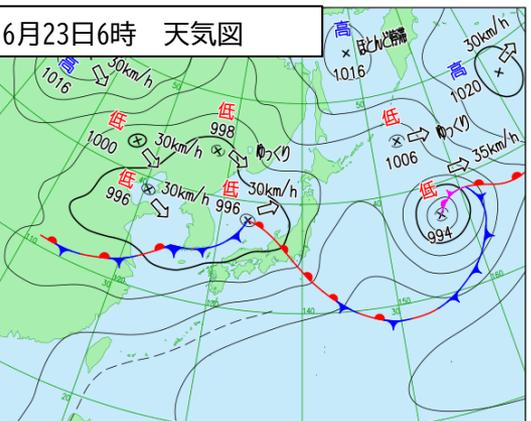


徳山ダム・横山ダム連携による発電に資する 水位運用高度化操作試行概要

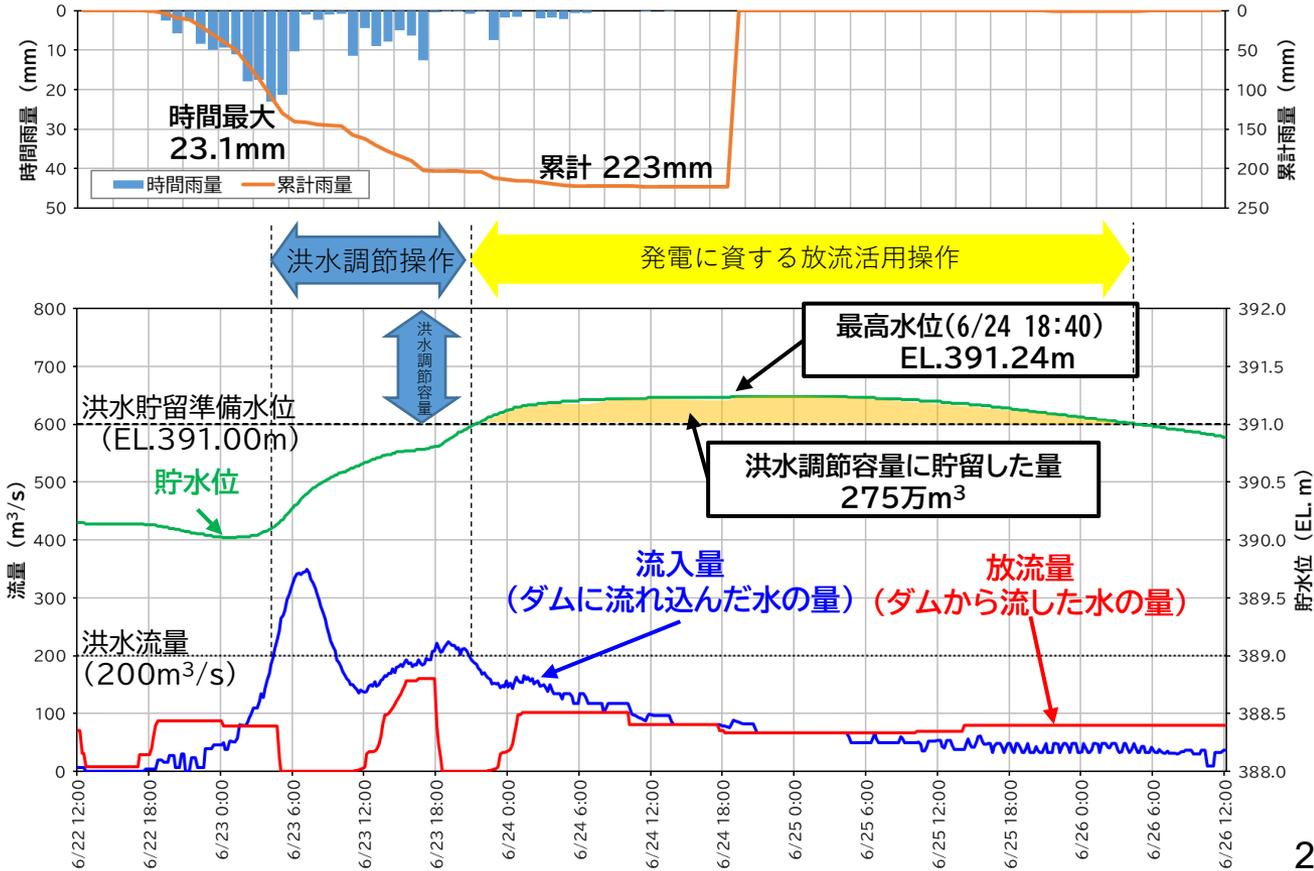
国土交通省中部地方整備局
木曾川水系ダム統合管理事務所
独立行政法人水資源機構
徳山ダム管理所
中部電力株式会社

徳山ダムにおける発電に資する水位運用高度化操作の試行

- 梅雨前線の活動により、九州北部から北陸を中心にライン状の活発な雨雲がかかり激しい雨となりました。徳山ダム流域では6月22日の18時頃から雨が降り始め、流域平均総雨量は223mmを観測しました。
- この降雨の影響で、揖斐川の流量が増加し、2度にわたり洪水調節を実施し、合計約710万^m（バンテリンドームナゴヤ約4杯分）の水を徳山ダムに貯留しました。
- その後、次の洪水に備えて貯水位を洪水貯留準備水位以下に低下させるのが従来のダム操作ですが、**最新の気象予測技術を活用**しその後の降雨の状況を踏まえ、洪水調節準備水位以上に貯留した**275万^m（バンテリンドームナゴヤ約1.6杯分）**の水を水力発電所により放流する取組を徳山ダムで初めて実施しました。



●徳山ダムにおける発電に資する放流活用操作



徳山ダム・横山ダム連携における増電効果

○今回の一連の操作により、**徳山ダムと横山ダムにおける合計の増電量は約1,581MWh**と試算されます。

○これは、**一般家庭約6,080戸が1ヶ月に消費する電力量**に相当します。

※一般家庭の1ヶ月の消費電力量を260kWhとして試算したものの。



発電に資する放流活用操作の試行日時※1	活用した量 (万m ³)	増電量 (MWh)	対象ダム※2	備考
R4. 8. 7 0時～ R4. 8. 8 8時	約250	約350	横山ダム	洪水後の貯留水を活用
R4. 9. 20 23時～ R4. 9. 22 1時	約120	約160	横山ダム	洪水とならない出水を活用
R5. 7. 1 22時～ R5. 7. 2 21時	約7.6	約8.8	横山ダム	洪水とならない出水を活用
R5. 8. 17 17時～ R5. 8. 19 21時	約197	約230	横山ダム	洪水後の貯留水を活用
R6. 6. 24 10時～ R6. 6. 26 5時	約275	約1,581	徳山ダム 横山ダム	洪水後の貯留水を活用

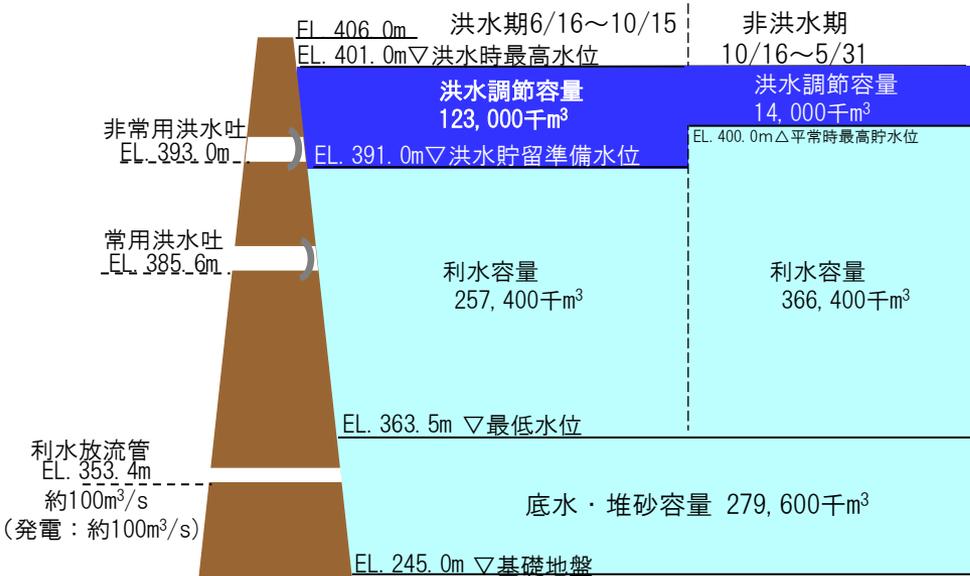
※1 開始時刻は発電に資する放流活用操作のためゲート放流を停止した時刻、終了時刻は発電活用操作により洪水貯留準備水位以下に水位が低下した時刻を記載。

※2 横山ダムにおいては令和4年の出水期から発電に資する放流活用操作に取り組んでいます。

〈参考〉徳山ダム概要



徳山ダム容量配分図



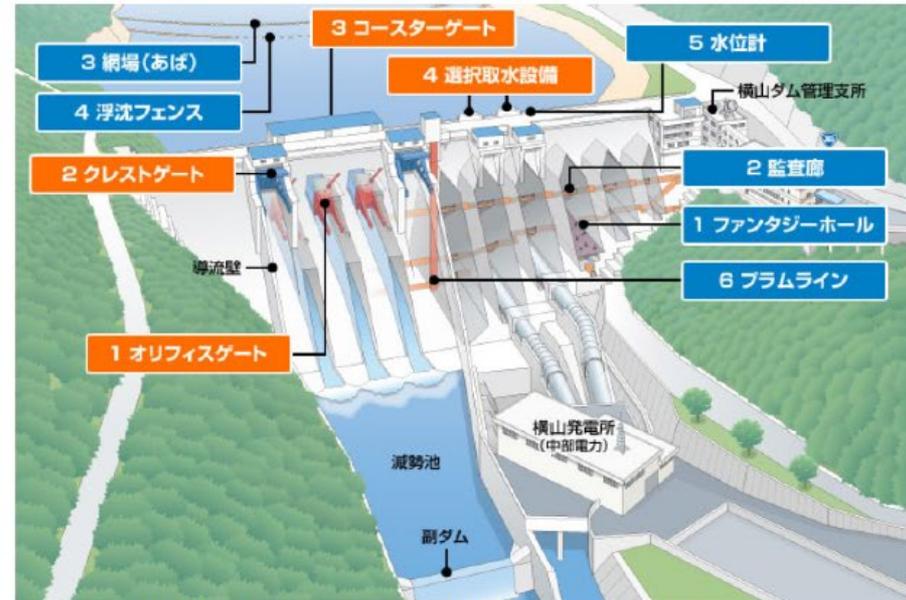
徳山ダム概要

- 管理者 : 独立行政法人水資源機構
- 所在地 : 岐阜県揖斐郡揖斐川町
- 水系河川名 : 木曾川水系揖斐川
- ダム型式 : 中央土質遮水型ロックフィルダム
- 堤高 : 161m
- 流域面積 : 254.5km²
- 管理開始 : 平成20年 (2008年)

徳山水力発電所概要

- 管理者 : 中部電力株式会社
- 出力 : 164,200kW
- 最大使用水量 : 100.4m³/s
- 有効落差 : 1号機 181.96m (ピーク需要対応)
2号機 144.50m (ダム直下流に常時発電)

〈参考〉横山ダム概要



* 青い名称はダムを管理するための設備、オレンジの名称は放流するための設備です。

ダム天端高 EL.209.5m

洪水時最高水位・常時満水位 EL.207.5m

非洪水期予備放流水位

EL.192.7m

洪水期制限水位

(6/16~10/15)

EL.187.0m

洪水期予備放流水位

EL.181.3m

最低水位 EL.180.0m

基礎岩盤 EL.123.7m

洪水調節容量

(6/16~10/15)

29,600千m³

利水容量(発電)

(10/16~6/15)

30,000千m³

利水容量(発電)

(6/16~10/15)

3,400千m³

有効貯水容量

30,000千m³

総貯水容量

40,000千m³

堆砂容量

10,000千m³

横山発電所概要

■出力

認可最大出力: 70,000kW

常時出力: 800kW

■水量

最大使用水量: 129.00立方メートル毎秒

■落差

有効落差: 63.30m

〈参考〉発電に資する水位運用高度化操作内容

- 従来の操作：治水を目的としたダムにおいては、出水に伴いダムに一時的に洪水を貯留した後、洪水吐ゲートを使用し、速やかに貯水位を洪水貯留準備水位まで低下させることで、次の出水に備える操作を行う。
- 新たな操作：最新の気象予測技術を活用し洪水対応に支障とならないと判断された場合、洪水吐ゲートによる放流を停止し、発電放流管のみで放流し貯水位を低下させる操作を行う。
- メリット：自然エネルギーである水力発電による発電量を増加させカーボンニュートラルの取組みを推進。

【洪水後期放流の工夫】

